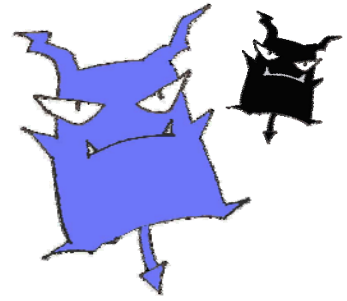


平成19年11月

京都市こどもの感染症

かんせんしょう



★ ☆ これから流行りそうなものは…

< 去年の今頃(11月)の順位 >

順位	病気の名前	特徴、予防法など
1位	かんせんせいいちょうえん 感染性胃腸炎	発熱、下痢、嘔吐などが症状。ノロウイルスが有名ですが、その他の色々なウイルスや細菌も原因となり、何回もかかってしまうことがあります。予防のため、手洗いや食品の十分な加熱などを心がけましょう。
2位	みず 水ぼうそう (水痘)	水痘ウイルスが原因で、全身に発しんができます。伝染力が強く、肺炎・脳炎・髄膜炎などの合併症を併発することもあります。 発病3日以内に抗ウイルス薬を服用することで、症状の軽減が期待できます。予防接種は任意(1歳以上で、1回接種)ですが、集団生活をする場合は、受けておかれることをおすすめします。かかりつけの医療機関にご相談ください。 なお、集団へ感染がひろがるのを防止するため、学校保健法による出席停止期間は、 <u>すべての発しんが、かさぶたになるまで</u> となっています。
3位	ぐん、ようけつせい A群溶血性レンサ きゅうきんいんどうえん 球菌咽頭炎	のどの痛みと発熱で始まり、赤い発しんが全身に広がります。3~4日すると、舌が、いちごのように赤くなって、ぷつぷつになる、いちご舌とよばれる症状が特徴で、4~5歳での感染が多くなっています。 細菌によって起こる病気ですので、治療には主に抗菌薬(主にペニシリン系)を用います。症状が軽快しても、細菌が完全に体から消えたわけではありません。医師の指示に従って、お薬をきちんと飲むことが大切です。

★ ☆ 注意する感染症！

● ● インフルエンザにかかる前に…



急に気温が下がるこの季節。例年、11月頃になると、インフルエンザの報告が、各地でみられ、翌年1~3月頃にかけてピークを迎えています。

インフルエンザにかかると、急な発熱(高熱)や筋肉痛、関節痛などの全身症状が強く出やすく、乳幼児の場合は、吐き気や嘔吐、下痢などの胃腸症状を伴うこともあります。

また、普通のかぜと異なり、インフルエンザウイルスに感染すると、特に免疫力の弱い乳幼児では、肺炎や気管支炎、中耳炎、脳炎などの合併症を起こし、重症化することもあります。気になる症状があれば、「いつものかぜ」と油断せず、早めに小児科に行きましょう。お母さんなど、周りの大人がウイルスを家に持ち込まないようにすることも大切です。

◎ 主な予防策

- 1 「手洗い」「うがい」をしましょう。(のどや手指など身体に付着したウイルスを除去します。)
- 2 「マスク」をしましょう。(口、鼻からの感染の機会を少なくし、他の人への感染も予防します。)
- 3 「適度な湿度」を保ちましょう。(空気が乾燥すると、インフルエンザにかかりやすくなります。)
- 4 「日頃から十分な休養、バランスの良い食事」をとりましょう。抵抗力を高めるためにも大切です。
- 5 「流行前のワクチン接種」は、インフルエンザの予防手段の一つで、重症化防止にも有効です。



接種回数は1回又は2回で、13歳未満のお子様は2回接種となっています。ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種後、2週間以上経ってからなので、早めに接種を行いましょう！
予防接種実施医療機関は、京都府医師会ホームページから検索できます。

◆ 気になる症状があるときは、かかりつけの医療機関に相談しましょう！